

科目名	教員名
肢体不自由児の心理・生理・病理	柴田 保之

## 開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
たま	集中	スプリングセッション	スプリングセッション	1	2

## 講義概要

### 授業のテーマ

肢体不自由児という障害の病理学的、生理学的理解と肢体不自由のある児童生徒の心理に関する理解を深めるとともに、肢体不自由児に対する教育のあり方を教育心理学的な観点から理解する

### 授業の内容

#### 授業の概要

肢体不自由という障害の病理・生理についての講義をしたのち、重症心身障害児を含めた肢体不自由児の教育を進める上で重要な、姿勢や、感覚・運動、認知などの諸特性について検討し、さらに、自立やコミュニケーションといった肢体不自由児の教育に関する諸問題を論じていく。

### 到達目標

【論理敵科学的思考力】肢体不自由という障害や重度重複障害という障害の心理・生理・病理について、特に、教育という観点から基礎的に理解することができる。

【知識・技能の活用】肢体不自由児や重度重複障害児と具体的に関わり合い方についての基本的な構えを理解し実践することができる。

### 授業計画

第1回	障害とは何か 障害一般についての基本的な理解と肢体不自由や重度重複障害の基本的な理解 【準備学習 30分】 ⇒これまで受けてきた授業において、障害とは何かについて学んできたことについて整理しておく
第2回	肢体不自由児の姿勢系の活動について

第 3 回	肢体不自由児の感覚の特性
第 4 回	肢体不自由児の運動の特性
第 5 回	障害の理解(1)肢体不自由という障害の病理・生理
第 6 回	害の理解(2)脳性麻痺の病理・生理
第 7 回	重症心身障害の病理・生理
第 8 回	他の感覚障害との重複障害の病理・生理
第 9 回	肢体不自由児の認知の特性(1)空間認知について 【準備学習 30分】 ⇒第1日目、2日目の講義内容について資料等を通じて復習する。

第 10 回	肢体不自由児の認知の特性(2)文字の認知について
第 11 回	肢体不自由児の認知の特性(3)数の認知について
第 12 回	肢体不自由児の自己認知について
第 13 回	様々な機器を用いたコミュニケーションの支援 【準備学習 30分】 ⇒第3日目の講義内容について資料等を通じて復習する。
第 14 回	新しいコミュニケーションの支援としてのソフトタッチングアシスタンスについて
第 15 回	まとめ
授業計画 の説明	本講義はスプリングセッションに行われるが、第1日目、第3日目、第4日目を柴田が担当し、第2日目を久野が担当する。 柴田は主として心理に関わる領域を担当し、久野は主として生理病理に関わる領域を担当する。

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

#### 授業時間外の学習方法

マスコミなどで語られる様々な障害者問題などにできるだけ注意を向け、障害という問題について多様な視点から理解を深めることが望ましい。授業で配布される資料を授業後に目を通すこと。

## 受講に関するアドバイス

特別支援教育の免許を取得するしないにかかわらず、教師をめざす上で必要なことと考えて受講してほしい。

## 成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
レポート	100%	肢体不自由児の教育に必要な心理・生理・病理の基本的な事項が理解できているか。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

注意事項	特になし
------	------

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

## 教科書・参考文献等

### 教科書

特になし参

### 参考文献

書名	著者名	出版社	備考
沈黙を越えて	柴田保之	萬書房	
『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』	文部科学省	教育出版	

### 参考文献コメント

### 参考になるウェブページ